

被災者の方々は1ヶ月以上にわたり、満足に食事を取ることができないどころか、飲み水の確保、トイレの心配などから水を飲むこともままならない、また、お風呂も数日に1回、決められた時間で入浴するという状況の中での救護活動でしたが、被災者の方々の力になりたいその一心で任務を遂行することができました。

どこの避難所でも、被災者同士で協力して掃除や食事の当番を行い、励ましあって生活していた姿が強く印象に残りました。



このような大変な状況下でも、避難所や能登町役場で被災者からお礼の言葉や励ましの言葉を頂き救護活動の活力にもなりました。

まだまだ災害の傷は癒えることはありませんが、今までの日常を一日も早く取り戻せるよう今後も医療ケアだけではなく心のケアにも力を入れていかなければと思います。

また、2月15日から18日までの4日間、当院救護班の第2班目が救護活動のため輪島市と並んで被害の甚大だった珠洲市に出動しています。

救護班 主事 岡田 孝太

※日本赤十字社では令和6年能登半島地震災害を受け付けています。当院でも会計窓口に募金箱を設置しておりますので皆様のご協力をお願いいたします。

※当院の活動内容は、横のQRコードからご覧になれます。



KURIYAMA_REDCROSS_HOSPITAL

◎皮膚科出張医師予定 ※都合により変更する場合があります

★田村 明美 医師 3/5(火)・19(火)

★阿部 清秀 医師 3/12(火)・26(火)